

さわがせ

号数 第 3 2 8 号
発行日 令和 4 年 5 月 8 日
発行所 金光教 韮 教会
〒 550-0011
大阪市西区阿波座 2-2-10
TEL&FAX 06(6541) 6313
mail : kagiyama2001@ybb.ne.jp



境内正面入口に植えられている花々が一斉に咲き誇りました(4月4日)

初代白神先生 140 年目を迎えての御大祭

教会長 鍵 山 公 生

初代白神先生 140 年の式年祭が 4 月 24 日にお仕えになられました。そのお祭りを仕えるに当たり、大阪教会月例祭で次のような趣旨のお話を伺いました。

このお祭りの内容として、「私はおかげをいただき、元気にすごさせていただいています、という御礼のお祭りのみで終わってはならない。初代白神先生の願いとしてこられたことを、私たちが今ここに現すことが大切である」と。



白神新一郎先生のこと

白神新一郎師は岡山市内に住み、代々米穀商を営み、岡山藩、池田家の御用達も務めていて、早くから学問を修め、町人としては高い教養を身に付けられました。また師は生来信仰深く、山伏の補任状も受けておられました。そして 42 歳の頃眼病を患い失明されました。近郊の医者のもとより社寺参拝、あるいは四国八十八カ所のお寺巡りなどして祈願されましたが、眼は開かれなかったのです。

藤井きよの氏のこと

当時金光様の近く大谷に住んでおられた藤井きよのという方が、長男を出産後25歳の頃に失明され、この方も白神先生と同様、医師服薬はもとより、あらゆる神仏に祈願されましたが治らず、この道にご縁をいただき金光様のお取次ぎをいただかれました。金光様から「信心すれば目は見えなくても、一生、不自由はさせない」と仰せられ、その言葉通り、道を歩くにも杖を使う必要がなく、機を織はたることもでき、また裁縫も上手で、糸を針に通すことも、布の縞目を合わすこともできました。そしてその体で岡山まで出かけ、金光様の教えられた「日柄方角、家相、たたり、忌み汚れを言っ
てはならない。それは人間のうそ、つくりごとである。神はうそを言われぬ」などと、迷妄から人々を解放する教えを説かれ、岡山の池田家や武家屋敷にも出入りを許され、やがて武士の間にも信心が伝わるようになったのです。



白神先生と藤井氏の出会い

白神新一郎師は藤井きよの氏に出会い「目が見えなくとも、万事万端おかげをいただかせる神様。私がおかげをいただいてきた生き証人だ」と藤井氏のおかげの事実を聞かれた白神師は「これは前代未聞」と感じて金光様の教えに導かれることになったのです。

ここで大切なことは、藤井きよの氏が見えぬ目が金光様のお取次ぎにより見えるようになっていたら、「金光様のおかげをいただいた」というだけで終わっていたかもしれません。しかし目が見えなくても藤井きよのさんのように「何不自由なく生活ができられた」そこに大きなおかげをいただいておられるのです。

このように金光様の教えを聞き、信心するようになって、目の病や、盲目の人

春の合同墓前祭
3月27日

春の合同墓前祭が、瓜破
霊園に於いて執り行われ、
松居邦昌さんの納骨祭も、
併せて行われました。



が開眼するというおかげを受けられた方は、今までに数え切れないほどおられます。ここで目が見えないながらも「生活に差し支えない」というおかげを被ることの素晴らしさを噛みしめたいと思います。

日常生活に差し支えなし

さてこのお話を聞かせていただいて、わが教会にも事実、現在このようなおかげをいただいておられる方がおられることに気づきました。

最近金光新聞（2月9日付）にも信徒会（あいよかけよ誌4月号）にも掲載されました、韃教会信徒総代の渡辺秀孝さんです。

今から25年前に網膜剥離で目の手術を受けられましたが、その結果左目を失明してしまいました。そのことをご存じでない方もあるくらい、差し支えなく日常生活を進めておられます。

その入院中に父親のしげるさんが亡くなり、教会で葬儀をされましたが、喪主の立場でありながら退院できず、大学を出たばかりのご長男が喪主の代役をされ、立派にバトンタッチすることができたのでした。

渡辺さんは今まで会社で設計の仕事をしてきましたが、目の疲れもあって55歳で早期退職し、今度は旅行土産の会社に勤め、プログラム作りの事務をするようになりました。しかしどうしても片眼だけで一日中パソコンと向き合うのが難しくなり、午後の半日のみの勤務にしてもらいました。それ以前に父親のしげるさんを1年半ほど教会へ車で送迎しながら日参していましたが、父親が亡くなった後、午後の勤めになったおかげで、午前10時の御祈念時間に参拝することができるようになりました。

私たちから見れば不自由だと思われる目で、車の運転もでき、教会の掲示物を書くこともでき、そのために今も習字の稽古に通って奉仕しておられるのです。

手書きの書物にして配布

この差し支えなく日常生活ができることは誠にありがたいことで、初代白神先生は度々岡山から金光様の御広前に参拝され、教祖様のみ教えやお話を承り、この「前代未聞」の神様のありがたさに心の目が開け、同時に肉眼が開かれたのでした。このありがたい神様のことを知らない世の人々に伝えたいと、手書きにより「お道案内」という書物を書かれ、人々に配られたのです。そこに書かれたみ教えの数々、おかげの事実。その他まだ書き尽くせないものが多々あり、世の人々に長生きして、その話を書き足してほしい。そして人を助けてほしいと願っておられたのです。

今の私たちの現状を顧みて

私たち韃教会にご縁をいただいている信奉者をご承知のことですが、初代韃教会長和田安兵衛先生が若い頃、躁鬱症や労咳（肺病）という病に罹り難渋され、初代白神先生のお取次ぎをいただいで、たちどころにその病から救われました。そこから和田先生は綿商の仕事をしつつ信心を進め、後には自らもおかげをいた

だいた喜びとこの神様の尊さを世の人々に伝えたいと、お道の先生の仲間に加わり、多くの人々を救い助けられ、代を重ねて現在に至っているのです。そのことを思い返せば、ただ自分の助かりのみに落ち着いては誠にすまないことです。おかげをいただいたらお返しするのが人の道です。この道は「あいよかけよで助かる道」です。

人を助け共に助かろうと発揮発揚するとき

本日の天地金乃神大祭は、藤井きよの氏、白神新一郎師、あるいは多くの道の先覚諸師に、ただお礼の言葉を述べるだけのお祭りではなく、この道のありがたいこと、尊いことを今の世の人々に伝えて、より多くの人々と共に助かろうという心を、私たちが今ここに現そうと発揮発揚するときです。



細井由彦さんからのお便り

親切な人はどこの国にも

ご無沙汰致しております。いつも「さわかぜ」をありがとうございます。今号(さわかぜ327号)を拝見し、私もアメリカでのことを思い出しました。

先生もご存知のようにもう30年以上も昔のことです。車で2週間の長期の旅行をしたときにディズニーランドに行きました。気がつくとき財布がありません。浅いポケットに入れていた私がうかつだったのですが、免許証やクレジットカード、現金など一揃いが入っており大変困りました。園内で動いたところを何度も行き来して探しましたが見つかりません。サービスセンターにも二度ほど訪ねてみましたがありませんでした。二時間ほどうろろと探し回りました。妻や子供たちにも大変心配をかけました。あきらめかけてダメ元で3度目にサービスセンターに行ったときに、何と届けられていました。しかも中身は全く失われずにです。聞いてみると、ジェットコースターの椅子に落ちていたのを見つけて届けてくれたそうです。

財布を落としても戻ってくるのは日本社会の美德で、外国ではそうはいかないなどとよく言われますが、そんなことはなく、人の心はどこでも同じで、親切な人はどこの国にもおられるものだと思います。おかげをいただいた一体験です。

さわかぜは、[鞆教会ホームページ](#)からもお読みいただけます。

[金光教うつぼ教会](#)

検索

月例霊祭日に、祥月命日の御霊様もお呼び出し
てご慰霊させていただきました。
ご都合お繰り合わせをいただきます。
(5月24日・6月24日ともに午後2時より)

5月8日(日) 午前10時30分より

天地金乃神大祭奉行

祭典後説教、講題：「日々、神様と共に」

講師：佐野教会長 福嶋 光 先生

5月

20日(金) 信徒共励会 午前10時

24日(火) 月例霊祭執行 午後2時

6月

1日(水) 月例祭執行 午後2時

5日(日) うりわり墓参 午前7時

11日(土) 月例祭執行 午前10時30分

12日(日) 教団独立記念祭 御本部参拝

17日(金) 信徒共励会 午前10時

24日(金) 月例霊祭執行 午後2時

祭典後教話、大阪府連盟布教部講師

30日(木) 夏越感謝祭執行(人形行事)

午前10時30分

7月

1日(金) 月例祭執行 午後2時



勸学祭

4月10日

子どもたちがこれまで、無事成長させていただいたことの御礼と、世のお役に立つ人にならせていただきますよう祈念させていただき、祭典、「勸学祭」が仕えられました。祭典後、直会として学用品を頂きました。



祭典後、ミニゲーム（景品釣り）で楽しみました



ご大祭準備大掃除

5月3日、晴天にも恵まれ、ご大祭準備大掃除を行いました。ご祈念の後、各自持ち場に分かれ、普段手の届かないところなどには脚立や足場を設置して、お掃除をさせていただきました。

